

教育研究業績書

2024年07月12日

所属：食物栄養学科

資格：非常勤講師

氏名：谷野 永和

研究分野	研究内容のキーワード
給食経営管理学 食生活学	給食経営管理、ふれあい昼食、独居高齢者、食事支援、クックフリーズ、フレイル予防
学位	最終学歴
栄養学士	甲子園大学 栄養学部 栄養学科 卒業

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書、教材		
1. 給食経営管理実習ノート	2005年04月	給食経営管理実習における実習内容、必要帳票の説明、運営方法を記載している。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 健康マイライフ実践講座	2023年8月22日	住み慣れた街でいつまでもフレイル予防で健康長寿一
2. 県社協 福祉施設研修	2023年2月10日	地域で取り組む“食”の支援
3. 西宮市保育所職員専門研修	2022年7月1日	保育所施設における食事摂取基準を活用した食事計画
4. 健康ひょうご21県民運動健康づくり推進員フォローアップ研修会	2020年11月4日	高齢者の低栄養・フレイル予防一食事摂取基準2020年版で考える一
5. 給食施設研修会	2018年5月30日	給食管理に必要な帳票と効果的な活用法
6. 健康ひょうご21県民運動健康づくり推進員研修会	2018年1月18日	低栄養予防のために 健康長寿の食生活のすすめ
7. 中播磨健康福祉事務所管内給食施設協議会研修会	2016年6月13日	顧客満足を目指した給食経営管理
8. 西宮市生涯学習大学	2015年6月15日	「健康寿命を支える食生活のポイント～食事摂取基準を参考に毎日の食事を考える」
9. 「農」イノベーションひょうご テーマ別勉強会	2015年2月2日	「高齢者に向けた食事サービスと地域の現状」
10. 日本給食経営管理学会研修会	2013年8月	クックフリーズシステムを利用した地域への食事支援
11. 三重県伊賀保健福祉事務所 給食施設従事者研修会	2012年3月9日	「給食施設における災害時の対応について」
12. 三重県平成23年度給食施設管理者研修会	2011年8月11日	「災害時の連携体制づくり」給食施設協議会設立に携わって
13. 西宮市生涯学習大学ラジオ講座	2011年1月9日	高齢者の食生活と低栄養
14. 平成21年度 食事サービス事業ボランティア研修会	2009年7月31日	独居高齢者の食事や栄養状態について
15. 関西電力エネルギー利用技術研究所技術セミナー	2006年5月	「業務用厨房現場の現状と今後の課題」
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 介護支援専門員登録	2001年03月	
2. 管理栄養士名簿登録	1977年08月	名簿登録N012072
3. 栄養士免許	1977年04月	兵庫県
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 厚生労働大臣表彰 栄養指導業務功労者	2014年8月	栄養指導業務の功労を称え厚生労働大臣より表彰された
2. 兵庫県知事表彰 栄養指導業務功労者	2010年5月	
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 臨地実習ガイドブック	共	2011年03月	建帛社	前田佳子、高岸和子、林宏一、谷野永和、岸本三香子 臨地実習内容を達成できるように、各施設における給食経営管理業務について具体的な実習スケジュールや課題の取り組みを実例で示した。実習での給食の運営に必要な基礎項目の説明も記載した。担当：pp. 2-6, 68-78, 96-97, 119-120

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2. 給食経営管理実習／演習	共	2009年03月	培風館	明槻とし子、宇山裕子、田中敬子、谷野永和、並河信太郎、橋本加代、前田昭子、吉田龍平 給食経営管理実習について、基礎理論をふまえながら、実際の業務の流れや大量調理の特質などを解りやすく説明した。原価管理、新調理機器の使用、衛生管理、HACCPなどの説明や、数多くの献立例も収録した。 担当：pp. 5, 17-20, 40-52, 折込表1-28
3. 高齢者施設用語事典	共	2007年04月	中央法規出版株式会社	小室豊允、岡英世、奥西栄介、倉田康路、高林澄子、谷野永和他 高齢者施設における給食経営管理環境の現状、介護保険制度における利用者食費負担額や食事提供による施設側収入および、経費より給食部門の収支を考える。担当：pp. 537-540
4. ガイドブック 臨地・校外実習	共	2006年04月	医師薬出版株式会社	土江節子、中島泰子、伊藤裕美、今村妙子、谷野永和、木下泰子、徳田照亘、ほか 臨地実習で必要とされる給食経営管理の衛生管理、食事計画、品質管理、会計管理を事例を示して説明した。 担当：pp. 4-5, 23-24, 102-112, 537-540
2 学位論文				
3 学術論文				
1. Association between social network and dietary variety among community-dwelling older adults (査読あり)	共	2023年11月	Public Health Nutrition, in press.	(Yokoro M, Otaki N, Imamura T, Tanino N, Fukuo K) 地域在住高齢者1229名を対象に、Lubben Social Network Scale (LSNS-6) と食品多様性スコアの関連を解析した。食品多様性スコア低値群は中・高値群に比し、LSNS-6スコアが有意に低値を示した。社会的孤立群 (LSNS-612) は、非社会的孤立群に比し、食品多様性スコア低値の割合が有意に高かった。重回帰分析の結果、交絡因子で調整後もLSNS-6スコアは食品多様性スコアと有意な関連を示した。また、前期高齢者、女性、誰かと同居している者において、LSNS-6と食品多様性スコアの関連が認められた。
2. Association between asymmetric dimethylarginine and sarcopenia in community-dwelling older women (査読あり)	共	2023年4月	Scientific Reports, Vol.13, article number 5510 (2023)	(Yokoro M, Otaki N, Yano M, Imamura T, Tanino N, Fukuo K) 地域在住女性高齢者144名を対象として血中非対称ジメチルアルギニン (ADMA) 濃度とサルコペニアの関連を検討した。サルコペニア群の血中ADMA濃度は非サルコペニア群よりも有意に高値を示した。ROC解析の結果、サルコペニアに対する血中ADMA濃度のカットオフ値は0.57uMであった。ロジスティック回帰分析の結果、交絡因子で調整後も高ADMAとサルコペニアの関連が示された (OR4.57, P=0.001)。さらに高ADMA群は2年後の骨格筋量が、低ADMA群に比し有意に減少した。
3. Low Dietary Variety Is Associated with Incident Frailty in Older Adults during the Coronavirus Disease 2019 Pandemic: A Prospective Cohort Study in Japan (査読あり)	共	2023年2月	Nutrients, Vol. 15, No. 5, pp. 1145 (2023)	(Yokoro M, Otaki N, Yano M, Imamura T, Tanino N, Fukuo K) 1635名の地域在住高齢者を対象とした1年間の追跡調査として、COVID-19パンデミック時のフレイルと食品多様性スコアの関連について検討した。回答が得られた者のうち、ベースライン時にフレイルでなかった1008名の解析対象者のうち、108名が虚弱を発症した。線形回帰分析の結果、食事多様性スコアとフレイルスコアとの間に有意な関連が認められた。COVID-19パンデミック時、食事多様性スコアが低いことは、フレイルスコアの上昇と関連していたことが明らかとなった。
4. Associations Between Dietary Variety and Frailty in Community-Dwelling Older People Who Live Alone: Gender Differences (査読あり)	共	2023年1月	J Frailty Aging, Vol. 12, pp. 30-36 (2023)	(Yokoro M, Otaki N, Yano M, Tani M, Tanino N, Fukuo K) 地域在住高齢者1,780名を対象とし、性別および居住形態が食品多様性スコアとフレイルスコアの関連に与える影響を解析した。一人暮らし高齢男性は同居者がいる高齢男性に比し、有意に食品多様性スコアが低値、フレイルスコアが高値を示した。しかし、このような居住形態による差は高齢女性では認められなかった。さらに、食品多様性スコアとフレイルスコアの関連においても、一人暮らし高齢男性の方が同居者がいる高齢男性よりも強い関連が認められた ($\beta = -0.271$, $P = 0.011$; $\beta = -0.131$, $P = 0.045$)。さらに、高齢女性においても同様の関係が示された。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
5.Social contact impacts physical activity and sedentary behavior among older adults in Japan due to COVID-19 (査読あり)	共	2022年6月	BMC Geriatr. Vol. 22, No. 1, pp.491 (2022)	(Otaki N, Yokoro M, Yano M, Imamura T, Akita M, Tanino N, Fukuo K) COVID19パンデミック下の高齢者1925名の社会的接触と身体活動量の関連を解析した。75.5%が友人との直接的な接触が妨げられたと回答した。対面での接触頻度は、身体活動量と有意に相関し、「友人との交流」(B = -0.111; 95%CI: -0.187, -0.035; p = 0.004)、「社会参加」(B = -0.163; 95%CI: -0.248, -0.079; p 0.001)であった。さらに、座位時間は社会的接触の変数である「友人との交流」と有意に関連していた(B = 0.04; 95%CI: 0.016, 0.064; p = 0.001)。
6.The association between life satisfaction and self-rated health among Japanese elderly who live alone (査読あり)	共	2022年	日本予防医学会雑誌,Vol.3, No. 16, pp.45-51. (2022)	(Nishimura Y, Otaki N, Yokoro M, Yano M, Akita M, Hayashi K, Tanino N, Fukuo K) 一人暮らし高齢者の低い生活満足度は、低い主観的健康観と有意に関連していた
7.Lower dietary variety is associated with worse sleep quality in community-dwelling elderly Japanese women (査読あり)	共	2021年6月	Asia Pac J Clin Nutr. Vol.30, No. 2, pp. 275-282 (2021)	(Yokoro M, Otaki N, Yano M, Imamura T, Tanino N, Maeda K, Fukuo K) 地域在住女性高齢者を対象に、食品多様性スコア(DVS)と主観的な睡眠の質(PSQI)との関連を解析した。結果、DVSとPSQIには有意な負の相関が認められた。DVSを構成する10食品群のうち、大豆・大豆製品の摂取頻度がPSQIと有意な関連を示した。しかし、この関連はDVSを投入することによって消失した。高齢者において単一の食品摂取よりも種々の食品を組み合わせた多様性の高い食事が睡眠の質に有益であることが示された。
8.Relationship between Social Activity and Frailty in Japanese Older Women during Restriction on Outings due to COVID-19. (査読あり)	共	2021年	Can Geriatr J. Vol. 24, No. 4, pp. 320-324 (2021).	(Akita M, Otaki N, Yokoro M, Yano M, Tanino N, Fukuo K) 65歳以上の地域在住高齢者322名を対象として2020年5月、コロナ禍における社会活動への影響を調査した。対象者の96.7%が社会活動が阻害されたと回答した。家族や友人との交流が減った者はそれぞれ83.4%、92.3%であった。緊急事態宣言下で高齢者の社会活動が阻害されたことが明らかとなった。中期、長期的な調査が必要である。
9.Relationship Between Dietary Variety and Frailty in Older Japanese Women During the Period of Restriction on Outings Due to COVID-19 (査読あり)	共	2020年	J Gerontol B Psychol Sci Soc Sci. Vol. 76, No. 7, pp. e256-e262 (2021).	(Otaki N, Yano M, Yokoro M, Tanino N, Fukuo K) 地域在住高齢女性を対象とし、COVID-19による外出自粛期間中の食品多様性スコアとフレイルスコアの関連を解析した。その結果、食品多様性スコアとフレイルスコアは有意な関連を示した(Crude: β -0.224, p .001, 多変量調整モデル: β -0.208, p = .001)。COVID-19によって様々な社会活動が制限されるなか、食事の質を高めることがフレイル予防に有用であることを示唆した
10.RELATIONSHIP BETWEEN ECONOMIC SECURITY AND SELF-RATED HEALTH IN ELDERLY JAPANESE RESIDENTS LIVING ALONE	共	2018年06月	J Nutr Health Aging,Vol.22. No.6, PP.695-699	N. OTAKI, N. TANINO, M. YOKORO, M. YANO, M. AKITA,H.UEMURA, M. MAEDA,K. FUKUO 独居高齢者における所得満足感と主観的健康感との関連について明らかにした。
11.在宅高齢女性における血中ビタミンD濃度と臨床指標との関係	共	2018年	New Diet Therapy vol14 No1 3~12	矢野めぐむ、谷野永和、長谷川裕紀、横路三有紀、福尾恵介
12.地域で生活する高齢者の食生活の現状と課題ー地域での食事	共	2016年04月	臨床栄養Vol.128 No.4 450-455	前田佳子、谷野永和、矢野めぐむ、福尾恵介 「介護や支援が必要な状態」や「病気」になる前の対応が必要。地域ボランティア、社会福祉協議会、地域住民と連携をとり活動を進

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
支援のあり方を考えるー				める現状を示した。
13. 地域在住女性高齢者における腎機能と内皮型一酸化窒素合成酵素遺伝子一塩基多型の関連	共	2016年	栄養科学研究雑誌 (2016) 5, 11~18	岡田薫、横路三有紀、矢野めぐむ、今村友美、大滝直人、谷野永和、福尾恵介
14. 地域在宅独居高齢者における昼食会への参加継続性に影響を与える因子についての研究	共	2015年	New Diet Therapy Vol.31 No.1 59-65	榊原典子、 <u>谷野永和</u> 、奥野公美子、前田佳予子、福尾恵介 昼食会に継続参加できなくなる脱落高齢者は、約半数存在する。MNAによって低栄養や低栄養リスクと判定された高齢者は、5年間の昼食会への参加継続は低い。
15. 独居高齢者における主観的健康感と社会参加との関連（査読付）	共	2014年3月	栄養科学研究雑誌 Vol.3 17-23	大滝直人、 <u>谷野永和</u> 、植村弘巳、横溝佐衣子、前田美也子、福尾恵介 70歳以上の一人暮らし高齢者において、地域社会組織への参加は生活満足度や経済状況などを含む共変量と独立して主観的健康感と有意に関連していた。
16. 高齢者における病期3b以上の慢性腎臓病は低亜鉛血症と慢性のlow-grade inflammationと関連する（査読付）	共	2013年3月	日本臨床栄養学会誌 Vol.35, No.1 7-12	坪井彩加、 <u>谷野永和</u> 、渡邊真由、鹿住敏、福尾恵介 加齢による腎機能の低下による慢性炎症と低亜鉛血症が関連していた。
17. 日本人女性におけるFTO遺伝子多型と体脂肪蓄積、糖代謝異常の関連。運動と加齢の影響（査読付）	共	2013年	糖尿病 Vol.56 No.3 155-164	田中翠、呉武、 <u>谷野永和</u> 、福尾恵介、鹿住敏、吉田徹 FTO遺伝子多型をもつ日本人女性で、激しい運動や加齢が、体脂肪蓄積、糖代謝異常にどのように影響するかを調べた。遺伝子多型による体脂肪蓄積は運動によって大きな影響は認められなかったが、加齢により、中年女性では内臓脂肪の蓄積や空腹時血糖値の上昇を認めた。
18. 地域独居高齢者における介護予防に関する介入効果ー全身運動を組み合わせた咬合力アップ運動の効果と有用性についてー（査読付）	共	2012年12月	老年歯科医学 第27巻 第3号 311-322	中村早緒里、高橋志乃、前田佳予子、田中弥生、 <u>谷野永和</u> ふれあい昼食会参加者を対象に咬合力や咀嚼力と運動の関連性に着目し、咬合力アップ運動を導入して、その効果とQOLの維持および向上を目指すことを目的とした。全身運動を組み合わせた咬合力アップ運動により、介入2年後に介入群が非介入群に比べて握力、咬合力において有意に高値であったことから、介護予防を目指した高齢者の健康づくりには咀嚼力と咬合力の維持・向上を組み込んだ総合的な支援は、QOLの維持および向上に有用であることが示唆された。
19. 栄養士養成課程学生の食生活状況および食行動・食意識との関連 ～食事バランスガイドの活用に向けての検討～（査読付）	共	2011年12月	日本食生活学会誌 Vol.20 NO.3 230-238	堀内理恵、藤井久美子、横溝佐衣子、 <u>谷野永和</u> 、高橋徹 学生の食生活状況と24時間思い出し法・秤量法・食物摂取頻度状況調査による調査結果との比較検討による食事バランスガイド活用法を見出す事を目的としている。食事バランスガイドによる食事調査を食生活の意識づけのために定期的に頻繁に実施し、食物摂取頻度状況調査や食行動・食意識調査を組み合わせる個人の問題点を抽出し、各個人にあった実践的な栄養教育を実施していくことが必要であると思われる。
20. 地域在宅高齢者のMini Nutritional Assessment (MNA) と血清プレアルブミン値の関係におけるBMIの影響（査読付）	共	2011年04月	日本病態栄養学会誌 Vol.14 317-324	萩里早紀、 <u>谷野永和</u> 、山本遥菜、深田瑠美、河端真実、福尾恵介 高齢者の栄養評価に用いられるMNAと急性低栄養の指標である血清プレアルブミン値との関係に与えるBMIの影響を検討した。MNAに握力を組み合わせることにより、地域在宅高齢者における急性の低栄養群を適切に抽出できることが示唆された。
21. 食事バランスガイドを活用した女子学生の食生活の調査と食意識の変化（査読付）	共	2010年12月	日本食生活学会誌 Vol.21, No3 211-216	堀内理恵、北脇涼子、西村侑子、 <u>谷野永和</u> 、横溝佐衣子 食事バランスガイドを用いた栄養教育は、女子学生の食生活改善に役立つことが示唆された。さらなる栄養教育科目の充実、授業時間数等の充実が必要と思われた。
22. 高齢者の咬合力と食生活について	共	2009年9月	保健の科学 第51巻 第9号 635-639	前田佳予子、高橋志乃、 <u>谷野永和</u> 高齢者において咬合力に影響を及ぼす要因について明らかにすることを目的とした。高齢者において残存歯数を多く残すことや生活

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
23. 魚主菜献立の特徴の分析～給食管理実習の事例より～（査読付）	共	2009年4月	日本給食経営管理学会誌 Vol.3 No.1 3-9	活動量の増加が咬合力の維持に有効である。咬合力を維持することにより、咀嚼難易度の高い食品の摂取が可能となると考えられる。 横溝佐衣子、橋本加代、 <u>谷野永和</u> 給食管理において献立作成は重要であり、献立の様式による栄養量および食品の使用状況の違いを検討することを目的とした。献立様式によるエネルギー、たんぱく質に差は認めなかったが、脂質、鉄、ビタミン類、脂肪酸類に有意な差がみられた。献立のエネルギーと食品数について食品群別に分類した結果、エネルギー、食品数ともに有意差がみられた群は油脂類、乳類、海藻類であった。脂質について動物性、植物性、魚介類の各割合を比較した結果、和風では魚介類の脂質の割合が多く、洋風では脂質の低い魚を利用し、調理過程での脂質の使用が多いという特徴がみられた。
24. 栄養士養成課程学生の目測能力および食意識変化（査読付）	共	2009年	日本食生活学会誌 Vol.20 No3 230-238	堀内理恵、大浦麻衣子、藤井久美子、北脇涼子、 <u>横溝佐衣子</u> 、 <u>谷野永和</u> 、高橋徹 一定期間後に目測能力・食意識・食生活行動は有意に改善された。目測能力の向上には、秤を使って調理するという実践的演習だけでなく「規則正しい食事実践力」「バランスのよい食事実践力」が重要であることが示唆された。
25. 残食率からの献立の検討	共	2008年03月	武庫川女子大学紀要（自然科学）56,95-99	<u>横溝佐衣子</u> 、 <u>谷野永和</u> 、橋本加代、 給食経営管理実習で実施した献立について残食率から検討を行った。 栄養価や金額、献立内容の検討により、主食では白飯の量、主菜では様式や調理方法、副菜では食品の選択を考慮することにより、残食率の軽減につながることを示唆された。
26. 地域独居高齢者の食生活状況に関する調査研究	共	2007年03月	武庫川女子大学紀要（自然科学）55,31-39	<u>谷野永和</u> 、植村広巳、橋本加代、 <u>横溝佐衣子</u> 、福尾恵介 地域独居高齢者への体調不良時の食事支援体制の構築を目的として独居高齢者の食生活状況のアンケート調査を行った。外食や中食に依存する率は男性とふれあい昼食会に参加する者が有意に多い。体調不良時に食事を食べない者はふれあい昼食会参加者に多く適切な食事支援が必要と考える。
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. クックフリーズシステムを用いたムース食導入時の作業効果の検討	共	2016年11月	第12回日本給食経営管理学会学術総会	<u>谷野永和</u> 、 <u>横溝佐衣子</u> 、堀内理恵、福尾恵介 ムース食調理をクックフリーズシステムを用いて作業効果検討を行った。作業比較はライフコーダーで時間、歩数を調査し、官能評価、細菌検査も行った。ムース食の通常調理に比し、ムース食冷凍後解凍にて提供する作業、食材を加熱調理後冷凍し、解凍後増粘剤で仕上げる作業は作業時間の増加が認められるが、衛生面で問題は認めなかった。食材選択、増粘剤の種類検討を行えば常備食品としての利用が可能であり、ムース食導入時に役立つと考える。
2. ふれあい昼食会の献立内容、高齢者の味覚と食生活の変化	共	2016年09月	第63回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集	眞木優子、小山達也、 <u>横溝佐衣子</u> 、 <u>谷野永和</u> 、堀内理恵、 家庭で作る汁物の塩分濃度の測定、濃度の異なる塩分%の閾値調査、五味の官能評価におけるフィードバックを行ったことで、適正な塩分濃度の汁物を好むようになったり、塩分の高い食品の摂取を控える人が増えたことが示唆された。
3. 高齢者における疲労自覚と食習慣・塩分嗜好との関連	共	2016年05月	第70回日本栄養・食糧学会大会要旨集	小山達也、眞木優子、 <u>横溝佐衣子</u> 、 <u>谷野永和</u> 、堀内理恵 規則正しい食生活・食習慣をすることが疲労自覚症状の軽減につながることを示唆された。
4. 栄養士養成課程の学生における食品重量の目測学習実施頻度違いによる効果の検討	共	2015年11月	第11回日本給食経営管理学会学術総会	北川麻衣子、眞木優子、 <u>横溝佐衣子</u> 、 <u>谷野永和</u> 、堀内理恵 実習の中で、目測が難しい食品は特に目測を強化する等、能力向上を意識した授業展開の必要性が示唆された。
5. 学内製造調理済み冷凍食品の持ちかえり想定時の食品の中心温度	共	2015年11月	第11回日本給食経営管理学会学術総会講演要旨集	<u>谷野永和</u> 、 <u>横溝佐衣子</u> 、堀内理恵、福尾恵介 調理済み冷凍食品は、持ち帰り時の包装形態によって温度変化はあるが、地域高齢者が日常的な買い物での持ち帰り時間では、安全な温度帯で自宅までの持ちかえりが可能と推察される。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
6. 食品重量の目測に関する大学生・短大生の実習効果	共	2014年11月	第10回日本給食経営管理学会学術総会講演要旨集	北川麻衣子, 眞木優子, 横溝佐衣子, 谷野永和, 堀内理恵 2回目の目測演習で約半数の食品に改善が見られた。給食管理実習及び関連科目の効果があったと考えられる。
7. クックフリーズシステムを利用した高齢者への食事支援体制の構（第2報）調理済み冷凍食品の判策別と官能評価	共	2014年11月	第10回日本給食経営管理学会学術総会講演要旨集	谷野永和, 横溝佐衣子, 堀内理恵, 福尾恵介 研究所施設を利用し調理した調理済み冷凍食品の冷凍可否かの官能評価判別は、ひとり暮らし高齢者や学生では正確にできていない。学生や高齢者が調理した調理済み冷凍食品は再加熱のみで利用できる食事支援品として有効な食品と考えられる。
8. 主観的健康感と地域社会組織との関連	共	2014年08月	第61回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集	大滝直人, 谷野永和, 横溝佐衣子, 福尾恵介 地域ひとり暮らし高齢者を対象に、主観的健康感と地域社会組織との関連について検討を行った。地域社会組織への参加は主観的健康感と有意に関連していた。
9. 高齢者の味覚と嗜好との関連性	共	2014年08月	第61回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集	北川麻衣子, 眞木優子, 横溝佐衣子, 谷野永和, 堀内理恵 食嗜好と食生活の関連に相関性が示唆された。濃い味の汁物を好む者は、普段摂取している汁物の塩分濃度が高く、塩分の過剰摂取に繋がることが推察された。
10. クックフリーズシステムを利用した地域ひとり暮らし高齢者への食事支援体制構築の取り組み（第1報）	共	2013年11月	第9回日本給食経営管理学会学術総会	谷野永和, 横溝佐衣子, 堀内理恵, 福尾恵介 地域ひとり暮らし高齢者において、クックフリーズ食品は日常的に利用するには至っていないが、官能評価において評価は高く、今後食事支援に有効な食品と考える。
11. 食品重量の目測に関する学習効果	共	2013年11月	第9回日本給食経営管理学会学術総会	北川麻衣子, 眞木優子, 横溝佐衣子, 谷野永和, 堀内理恵 実習の献立作成で、目測誤差が大きかった食品の出現を増やす等、目測能力向上の指導を強化する必要性が示唆された。
12. 地域独居高齢者女性の食生活の検討	共	2013年09月	第60回日本栄養改善学会学術総会	横溝佐衣子, 堀内理恵, 谷野永和, 福尾恵介 作り置き料理内容や保存方法を含め詳細な検討を行う必要があり、身体状況や摂取頻度の把握を継続的に実施することで、低栄養のリスクの軽減につなげたいと考える。
13. 高齢者の味覚と食生活との関連性の検討	共	2013年09月	第60回日本栄養改善学会学術総会	北川麻衣子, 眞木優子, 横溝佐衣子, 谷野永和, 堀内理恵 普段飲んでいる汁物の塩分濃度が低いものほど規則的な時間に食事をとっており、良い食習慣を持っている人は健康的なその他の食習慣への関心につながっていることが示唆された。
14. 料理写真を用いた食品重量の目測における学習効果	共	2012年11月	第8回日本給食経営管理学会学術総会	眞木優子, 横溝佐衣子, 谷野永和, 堀内理恵 食品重量の的確な把握は、献立作成や食事調査で重要な能力の1つである。実習を通じて目測能力が向上したことから生鮮食品以外に調味料や乾物の目測能力向上の指導も必要である。
15. 地域における独居高齢者の食生活の検討	共	2012年09月	第59回日本栄養改善学会学術総会	横溝佐衣子, 堀内理恵, 谷野永和, 福尾恵介 配食サービスの認知度は高かったが、実際に利用する者は少なかった。男性はふれあい昼食会への参加率は低く、惣菜購入割合は高い。主菜を中心に手軽に作れる料理の紹介や保存方法など、食事作りを介して社会的なつながりを深める支援が必要である。
16. 独居高齢者対象ふれあい昼食会の内容検討	共	2011年11月	第7回日本給食経営管理学会学術総会講演集	眞木優子, 横溝佐衣子, 谷野永和, 堀内理恵 ふれあい昼食会で提供されている食事は、基準値に比べるとエネルギー、たんぱく質、脂質、炭水化物、塩分全てが高値となった。献立作成を行うボランティアの地域住民に献立に対するアドバイスをを行う必要性が示唆された。
17. 高齢者の腎障害には血清亜鉛低下と慢性炎症が関連する	共	2011年10月	第33回日本臨床栄養学会講演集	坪井彩加, 山本遙菜, 渡邊真由, 谷野永和, 福尾恵介, 鹿住敏 ふれあい昼食会参加者を対象に腎機能低下と血清亜鉛並びに炎症マーカーとの関連を検討した。加齢による腎機能の低下にも慢性炎症と亜鉛欠乏が関連していた。血清亜鉛低値の高齢者では腎障害の合併に注意が必要である。
18. 中年女性においてFTO遺伝子多型は体脂肪蓄積、高血糖、慢性炎症に相関する	共	2011年10月	第33回日本臨床栄養学会講演集	田中翠, 山本遙菜, 田中早苗, 吉田徹, 谷野永和, 福尾恵介, 鹿住敏 ふれあい昼食会参加高齢者を対象群として中年女性における体脂肪蓄積、糖代謝の関連を検討した。中年女性においてFTO遺伝子多型は体脂肪蓄積と高血糖に相関し、この相関に慢性炎症の関与が示唆された

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
19. 地域高齢者における咬合力アップ事業の効果と有用性について	共	2011年09月	第58回日本栄養改善学会学術総会講演集	中村早緒里, 高橋志乃, 前田佳予子, 松葉真, 谷野永和 介護予防の支援を目指して咬合力アップ運動の効果と咬合力アップに伴うQOL維持・向上を目指して介護予防の要因を明らかにするために運動が有用であるかどうかを検討した。地域高齢者において、咬合力トレーニングは、咬合力の維持・向上に効果があると推察された。介護予防を目指した高齢者の健康づくりに咀嚼力・咬合力の維持・向上を組み込んだ総合的な支援事業は有用であると考えられた。
20. 地域独居高齢者への食事支援に向けた食生活の検討	共	2011年09月	第58回日本栄養改善学会学術総会講演集	横溝佐衣子, 山本遥菜, 谷野永和, 福尾恵介 地域独居高齢者の食事支援を目的に、食生活調査を実施した。買い物頻度は男性の方が多かったが、冷凍食品や惣菜の購入割合も多く、女性は主菜となる食材を冷凍保存してる割合が有意に高い結果であった。
21. ふれあい昼食会参加ひとり暮らし高齢者の身体計測値と喫食記録の関連	共	2011年09月	第58回日本栄養改善学会学術総会講演集	谷野永和, 横溝佐衣子, 山本遥菜, 前田佳予子, 堀内理恵, 福尾恵介 独居高齢者は加齢によって体重, 骨密度の減少率が高くなるが握力は関連しなかった。簡便なカレンダー方式での喫食記録は回答率の高い群, 喫食率の高い群ともに体重・BMI・握力との関連が推察され低栄養予防のツールとしての効果が期待される。
22. 幼稚園給食の内容検討	共	2010年10月	第6回日本給食経営管理学会学術総会講演集	堀内理恵, 谷野永和, 横溝佐衣子, 蓬田健太郎 周りの環境によっても園児の食行動は大きく影響を受けると考えられる。早く食べ終わる園児にも、「よく噛んで食べよう」などの指導や、食事に集中できる環境作りなども大切であるとする。また、先生に声をかけられることで、残さずに喫食できた園児も多くみられたため、今後も先生方の声掛けや、その日のメニューや食材をテーマにした給食指導などが重要であると示唆された。
23. 食事バランスガイドを活用した女子学生の食生活状況と食行動の関連	共	2010年09月	第57回日本栄養改善学会学術総会講演集	堀内理恵, 藤井久美子, 横溝佐衣子, 谷野永和, 高橋徹 食事バランスガイドを用いた栄養教育は、女子学生の食意識を向上させ、食生活改善に役立つことが示唆された。さらなる栄養教育科目の充実、授業時間数等の充実が必要と思われた。
24. 外来肥満患者における栄養教育の媒体と性格傾向の関連性について	共	2010年09月	第57回日本栄養改善学会学術総会講演集	高橋志乃, 谷野永和, 前田佳予子 今回われわれは、東大式エゴグラム新版TEG2を用いて、性格によって患の意識変容や検査値に与える影響について調査を行なった。性格分類の結果より予後が良い群と予後が悪い群の2群に分類した。罹患年数が経つにつれて検査値の改善が見られず、かつ予後が悪い群の人数が多かった。このことから、性格が罹患年数や検査値に与える影響が伺われた。
25. 女子大生の疲労と生活についてー給食経営管理実習での検討ー	共	2009年9月	第56回日本栄養改善学会学術総会講演集	橋本加代・谷野永和・横溝佐衣子 女子大生の生活と実習前後の疲労度との関連を調べるため、睡眠時間、朝食欠食等の調査項目と疲労度の関連を検討した
26. 独居高齢者の主食、主菜調理状況と身体計測値の検討	共	2009年9月	第56回日本栄養改善学会学術総会講演集	谷野永和, 萩里早紀, 横溝佐衣子, 前田佳予子, 福尾恵介 本研究において、独居高齢者調理頻度は性差が大きく、穀類エネルギー低値群は身体計測値も低値であり、筋力低下も大きい。主菜調理頻度の違いによっても身体計測値に違いがみられ、独居高齢者の低栄養予防には調理状況も重要リスク項目であることがわかった。
27. 外来化学療法患者の消火器症状および嗜好変化の検討	共	2009年01月	第24回日本静脈経腸栄養学会学術総会講演集	尾寄文, 西理宏, 齋藤喜宣, 下野千草, 谷野永和, 森明菜, 南條典子, 川村雅夫, 下村裕子, 三家登喜夫, 南條輝志夫 外来化学療法患者における消化器症状および嗜好変化を調査した。食欲が低下あるいは亢進する食事は脂濃いもの、甘いものでは食欲低下、亢進ともに二極化していた。
28. 独居高齢者昼食会参加者の食事管理意識と身体的特徴	共	2008年11月	第4回日本給食経営管理学会学術総会講演集	谷野永和, 橋本加代, 横溝佐衣子, 前田佳予子, 福尾恵介 簡便な食事調査表であるふれあいカレンダーでの調査は食事管理意識を十分に反映している。食事管理意識の高い者は、身体計測値がより健康的値を示した。
29. Occlusal force, Grip, and chewable foods in the	共	2008年09月	15th International Congress of	Kayoko Maeda, Yasuko Tamefusa, Norikazu Tanino Keisuke Fukuo, 独居高齢者の咬合力と握力と噛める食品に関して報告した

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
elderly living alone 30. 地域独居高齢者対象「ふれあい昼食会」における栄養・献立管理	共	2008年09月	Dietetics 第55回日本栄養改善学会学術総会講演集	横溝佐衣子、岡本善世、谷野永和、福尾恵介 地域独居高齢者の健康と個人に対応した食事支援を目的に「ふれあい昼食会」参加者の身体状況の把握と昼食会の献立についての検討をおこなった。献立は様式、調理方法、食品数を調べ、身体計測値より求めた推定エネルギー必要量と献立の栄養価との比較をおこなった。
31. 西宮市鳴尾地区における在宅高齢者の栄養障害の実態調査に関する研究	共	2008年09月	第55回日本栄養改善学会学術総会講演集	朴愛智、谷野永和、宮永克子、萩里早紀、深田瑠美、福尾恵介 MNAを用いた栄養評価を行った結果高率に低栄養やそのリスクが存在する。 MNAの栄養評価に寄与する項目に、主観的栄養評価、BMI、ストレスが寄与する項目である。
32. 地域在宅高齢者の栄養障害スクリーニング法に関する研究	共	2008年09月	第55回日本栄養改善学会学術総会講演集	萩里早紀、谷野永和、宮永克子、朴愛智、深田瑠美、福尾恵介 MNAの栄養評価が正常でも、過栄養による栄養障害の疑いのある人が多く存在する。スクリーニング法を見直し、過栄養にも対応できる包括的なスクリーニング法の開発が必要である。
33. 独居高齢者における咬合力・握力および噛める食品について	共	2007年12月	第6回日本栄養改善学会学術総会講演集	北川倫衣、北嶋晃子、小坂田裕美、河村好美、北田由樹、木戸真樹子、桑田真結子、谷野永和、福尾恵介、前田佳子 調査した80歳代の平均咬合力をみると、年齢別咬合力による70歳代の咬合力と比較するとかなり低下していた。
34. ふれあい昼食会参加独居高齢者の食事管理	共	2007年11月	第3回日本給食経営管理学会学術総会講演集	谷野永和、橋本加代、横溝佐衣子、福尾恵介 ふれあい昼食会参加者は後期高齢者が多く主菜を食べる量が少ない。栄養補助食品の味は良い答えるの者が多いが購入希望者は少ない。主菜の摂取量が少ない者は主食の摂取量も少なくなっている。買物や料理をして自炊をしない者は主食量も少なくなっている。低栄養リスク項目が多くなるほど栄養補助食品を知らない。
35. 2型糖尿病患者の外食、中食の実態	共	2007年10月	第44回日本糖尿病学会近畿地方地方会講演集	南條典子、尾畠文、中村友紀、坂上幸恵、川村雅夫、谷野永和、楠山晃子、下村裕子、西理宏、三家登喜夫、南條輝志男 外食では2型糖尿病患者の方が「外食をしない」者が有意に多い。中食でも2型糖尿病患者の方が「外食をしない」者が有意に多い。肥満糖尿病患者は非肥満糖尿病患者より中食頻度が高かった。
36. 残食率からの献立の検討	共	2007年09月	第54回日本栄養改善学会学術総会講演集	横溝佐衣子、橋本加代、谷野永和 平成16年から18年に給食経営管理学会実習で実施した献立について献立様式、形式、調理方法別に分類をおこない、それらの残食率を求め比較検討をおこなった。また、残食率より栄養量や金額の損失分についても検討をおこなった。主菜、副菜ともに洋風や中華に比べ和風の残食率が高かった。肉料理より魚料理の方が残食率が高い。料理の組合せによる残食率の違いがある。
37. 高齢者施設における咬合力と握力について	共	2007年09月	第54回日本栄養改善学会学術総会講演集	前田佳子、橋本加代、谷野永和、為房恭子、齋藤郁子 施設別男女別の咬合力と握力については正の相関が見られ女性においては有意な相関がみられた。
38. 地域在宅高齢者の栄養状態の実態に関する報告	共	2007年09月	第54回日本栄養改善学会学術総会講演集	宮永克子、谷野永和、横溝佐衣子、福尾恵介、 在宅高齢者の栄養状態の実態を明らかにすると共に、高齢者に対する簡便かつ正確な栄養スクリーニング方法の開発
39. ユニットケアにおける食事提供方法の評価について	共	2006年10月	第65回日本公衆衛生学会学術総会講演集	五島千寿子、橋本加代、前田佳子、谷野永和、上羽敦子 ユニットケア型では、満足度が高かった。食環境の整備により家庭的雰囲気、におい、音など、の影響で食事の満足度が上がった。
40. 給食管理実習での魚料理の栄養評価	共	2006年10月	第53回日本栄養改善学会学術総会講演集	横溝佐衣子、橋本加代、谷野永和 給食管理実習で実施した魚献立について和風と洋風の献立形式による栄養価の違いについて検討した。各食品群別の栄養価と食品数を比較し、献立形式による違いについて検討をおこなった。
41. 西宮市鳴尾地域独居高齢者への健康支援体制の構築 ～体調をくずした時の食事支援体制の構築～	共	2006年10月	第53回日本栄養改善学会学術総会講演集	谷野永和、植村弘巳、橋本加代、横溝佐衣子、福尾恵介 鳴尾地区独居高齢者の体調不良時食事支援の構築を目的とした食生活状況調査を実施した。回答者541名で75歳以上の女性で10年以上の独居生活者が多い。日常の食事は自炊者が多いが、ふれあい昼食会参加者、男性では外食中食に依存する率が高い。体調不良時の食事は粥を好む。体調不良時に連絡する相手や食事づくりを依頼する相手も親族が高率であったが、実際には親族による食事支援は低率で

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
42.主菜の違いによる献立の検討	共	2006年09月	日本調理科学講演集	あった。 横溝佐衣子、橋本加代、谷野永和 給食経営管理学実習で過去に実施した献立について主菜の種類別に比較検討をおこなった。献立形式、様式、調理方法、食品群、主材料について主菜による違いを比較した。栄養価についてはPFC比について分散分析により比較した。
43.ABC分析による経営管理から見た地産地消をさぐる一考察	共	2005年09月	第52回日本栄養改善学会学術総会講演集	谷野永和、橋本加代、多田幸二 特定給食施設で使用される食品をABC分析によって年間仕入高占有率高位の食品を分類する。地元生産可能な食品を選定し生産者への依頼が可能か、生産者の意見、施設での経済的メリットを検討した。
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.「調理済み冷凍食品を利用した高齢者への食事支援体制の取り組み」	単	2015年02月28日	武庫川女子大学 栄養科学研究所 第3回公開シンポジウム	新調理システムでのクックフリーズシステムを利用した、栄養科学研究所での地域での取組を紹介した。その取組により得られた結果も話した。
2.クックフリーズシステムを利用した地域への食事支援		2013年8月	日本給食経営管理学会研修会	現在の食事提供には、クックサーブ、クックチル、ニュークックチル、クックフリーズ、真空調理などがある。クックフリーズ食品（調理済み冷凍食品）の利用による地域での食事支援体制の構築を目指した取組の紹介を行った。実際に急速冷凍機を用いて冷凍した調理済み食品の温度、時間の変化と衛生管理結果や味の評価を示した。
3.講演「ふれあい昼食会の新しい活動」	単	2009年3月7日	武庫川女子大学高齢者栄養科学センター平成20年度公開シンポジウム	西宮市鳴尾支部7分区で行われている「ふれあい昼食会」へ武庫川女子大学の学生、教員が参加し地域高齢者の健康支援をサポートする。昼食会での栄養管理、衛生管理、健康情報の発信、身体計測、学生と高齢者の世代間交流を講演した。
6. 研究費の取得状況				
学会及び社会における活動等				
年月日		事項		
1.2016年4月現在		日本公衆衛生学会		
2.2016年4月現在		日本臨床栄養学会		
3.2016年4月現在		日本給食経営管理学会（評議員）		
4.2016年4月現在		日本栄養改善学会		